

遊びのききめ



遊ぶ子と、遊ばない子の違いは運動能力や言葉の発達が違うだけではないのです。

よく遊べる子は、「お前はバカだ」と言われても平気で幼稚園・保育園に行きます。反対に「お前はバカだ」と一度言われただけで

登園を渋る子もいます。こういう子は小学校に入って登校意欲のない子になり易いようです。「バカヤロー」と言われたら、「お前もバカだ」と言い返せる位の子は、社会関係の基礎が育っているといっ

てよいでしょう。社会関係を育てるにはどうしたらよいでしょう。赤ちゃんが生まれると、すぐ人に囲まれた生活をします。特に赤ちゃんをとり巻く世界は大人が多いのです。その赤ちゃんが二・三歳位になると大人たちでは満足しなくなり、そして同じ年位の仲間に興味を示す

ようになります。そうなったからといって、上手に遊べるものはありません。二歳位の子どもが二人いても互いに勝手に遊んでいませ。これが平行遊びです。平行遊びをしているうちに、他の子と会話をしたり、物の貸し借りをしたり、けんかをしたりするようにになります。次に集団になって、役割を持つ遊びができるようになります。

このようになると、こんなにしてやったら友達が喜んだ、こうしたら友達に泣いた、こんな事をしたらけんかになった、というようなに体で覚えていきます。このように遊ぶことによって、親切、忍耐、誠意、敵意、反感というような事を自然に身に付ける事ができるのです。これは大人が教えて覚えられないものでなく、遊ばせることによって身に付くものです。こういうものが身に付いてくると、少し位の事では集団から抜け出す事もなく、思うとおりにならないからといってかんしゃくを起したりする事も少なくなります。

障害を持った子でない限り、遊ぶ事によって社会関係の基礎を身に付ける事が出来るのです。子ども会や幼児も入れて社会関係の基礎を身につける場としたいものです。

教育相談室は子どもの事ならどんな事でも相談に応じています。教育相談室 ☎ 43-1111

内線 214

小山田氏ゆかりの地(上)

都留市内の小山田氏史蹟を訪ねてみましょう。

小山田越中守信有が天文元年(一五三二)に谷村に館を移すまで代々の館があったところは、宝地区の金井です。

河口湖町の妙法寺に残された年録には、信虎が中津森を訪問したとか、中津森の殿様が百坪の館を建てたと記されていますが、これはまちがいでなく、その当時、金井は中津森村に属していたからです。

金井の全体が城の縄張りの中にありますが、館のあったところは向富山用津院の裏手の小高い山です。江戸川と泥(デイ)堀とに囲まれて、はつきりと城の外構えの遺構が認められます。

城の真裏、山際の高いところに、小山田氏累代の墳墓の地として知られる、富春山桂林寺があります。

武田信満と共に、上杉禅秀の乱に加担した小山田信澄富春が、明徳年間(一三九〇〜九四)に鎌倉建長寺の僧、格知禅師を招いて開山し、自らは開基となって建立した寺です。富春山という山号がこれを物語っています。これによって小山田氏の金井への定着が明徳年間まで遡れることになりました。また、境内には都留市指定天然記念物になっている、根廻り五メー

小山田シリーズ

トルを超える彼岸桜の巨木があり、小山田氏の盛衰を見届けてきたことでしょう。

中興開山小山田信茂らの眠る墓所に、郷土史家をはじめとする有志によって顕彰碑を建立しようとする運動が展開されています。館の南面には向富山用津院があります。小山田耕雲信長が開基となって建立されたものです。

この他に金井には、的場、馬場、御殿、御所路、鐘鑄堂など、戦国期特有の地名が残っていて往時をしのべます。

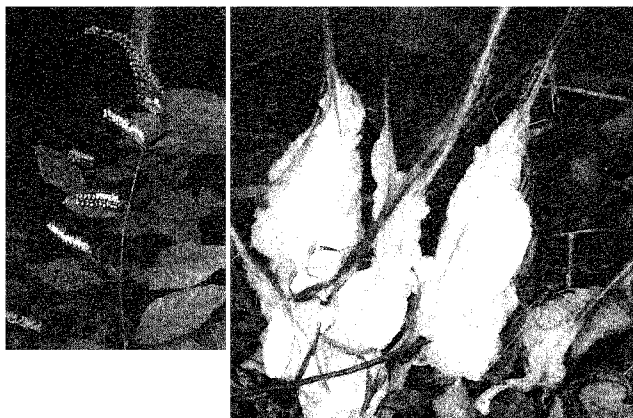
小山田氏の墓



金井の館跡(通称中津森館跡)

今月の花「シモバシラ」

十二月の花「シモバシラ」



冬の初めともいえる季節、この植物の茎の根元に白い水の結晶が美しく付いたのを見るのには、朝早くがいいのです。陽が差すとはなく溶けてしまいます。この水の結晶が出来るためには、土の水分量もある程度なくてはなりません。そういっても雨のすぐ後では水分が多すぎます。

この植物の属するシソ科の植物には茎の横断面が四角いものが多い、このことが水の結晶と関係しているようです。だからといってシソ科の植物に総て「シモバシラ」が出来るわけではありません。イヌヤマハッカなどにも出来ることを聞きましたが、確かめたことはありません。

陽が差すと知らぬまに溶けてしまふ水のように、都留の植物のカレンダーも最後の月となりました。一年間ご愛用下さった市民の方々に礼を申し上げます。都留文科大教授 森江 晃三